



# とりかへばや 金太郎 Jr.

ねっとわあく発

強くてたくましい男になっていく男の子  
童話の中は、ジェンダーでいっぱいです。  
さまざまな生き方をするヒーローやヒロイ  
ンそこで、「親ゆび姫」をモチーフにして、  
古典の「とりかへばや(とりかえたい)」を  
おはなしを、森野聡子先生にアドバイスを  
物語のどこに疑問をもち、何に気づいたら

そ れでも二人の体格は、まだ男女の差がついていませ  
ん。相撲をしてもまわしをつけていれば、誰も気づきま  
せんでした。金太郎になったお銀は、六歳、七歳、八歳  
と相撲大会で優勝し続けた。そうして、十歳になっ  
たとき、お銀に胸のふくらみがつきました。  
「金太郎がまるで女みたいな体になったぞ」

や がて、十七歳になったお銀は、夢をかなえて海外文  
化交流派遣団の一員になりました。厳しい訓練を乗り越  
えて手にした仕事でした。一方、金太郎もその旅のお話  
をまとめる随行団に選ばれました  
二人をとりかえたいと思う人は、都にはもう誰も  
いませんでした。

# 親がかり姫

創作童話

美しさを磨くことで愛されるのを待つ女の子。  
しかし、これからはもっといろいろな人格や、  
ンが描かれていいと思います。  
自分の人生を自分で選ばない『親がかり姫』と、  
参考に、『とりかへばや金太郎 Jr.』の二つの  
いただいてつくりました。  
いいかを探ってみませんか。



よ く晴れた月の晩です。恋人たちが女の子をほし  
魔法使いに会いに行きました。  
「女の子がほしいのです。どうか願いをかなえてくださ  
い。ほくたちで理想の女性に育てあげます」  
すると、魔法使いは、小さな種を渡しました。  
「これを育ててごらん」

二人が水をやって大事に育てると、やがてきれいな花  
が咲きました。花の中には、小さなかわいらしい女の子  
がいます。  
「なんてかわいい子でしょう。良い結婚ができるように  
私たちが全部責任をもって育てるから『親がかり姫』と  
呼びましょう」

親

親がかり姫が早く育つと育つたある夜の夜のこと、ひきが  
えるが家に忍び込んで言いました。  
「かわいい子だね。息子のお嫁さんにしよういいよ」  
それを聞いたお父さんとお母さんは、  
「娘が、ひきがえるの息子の嫁なんて、冗談じゃない」  
と、ひきがえるを追い払いました。  
「そうよね。ひきがえるじゃいやだわ」

そ んなある日、ブーンと空気をふるわせてこがね虫が  
やってきました。  
「やあ、ほくの理想のひとつだ。ぜひほくのお嫁さんにな  
ってください」  
けれども、お父さんとお母さんは、  
「ひきがえるよりはまだまだですが、こがね虫なんかには  
はやれない」  
と、早速追い払ってしまいました。  
「やっぱ、こがね虫じゃいやだわ」  
親がかり姫は、親の思うように素直に育っていきま  
した。

い まではもう昔のおはなしですが、駿河の国と相模の  
国の境の足柄山に育った金太郎は、とても強かったので  
源頼光の家来になって都に上がりました。坂田金時とい  
う名をもらい、大江山の酒呑童子を征伐した手柄によっ  
て頼光の四天王の一人になりました。  
こ れは、そのあとのおはなしです。  
結婚した坂田金時には、女と男の双子が生まれました。  
名前が「銀」と「金太郎」。やがて、お銀は父親似の活  
発な女の子に、金太郎は心優しくおとなしい男の子に、  
すくすくと育ちました。お銀の友だちは、けものばかり。  
岩から岩へびよん、びよん。  
「ようし、今度は相撲だよ」  
金時が驚くほど、お銀は相撲が強く、それに比べて金  
太郎は家の中で本を読んだり、貝合わせなどをして遊ぶ  
のが好きでした。しかし、男の子は五歳になると、その  
ころ都の恒例行事だった相撲大会に出なくてはなりません。  
初めて出た金太郎は一回戦で負けてしまいました。  
お父さんの金時は、頼光さまの四天王と呼ばれている  
人です。その長男が弱虫とあつてはお父さんの顔をつぶ  
すことになってしまいます。  
「お銀が男で、金太郎が女だったらよかったのかもしれ  
ない。二人をとりかえることはできないものか」  
考え抜いた末に金時は、家来たちにも内緒で、お銀を  
「金太郎」に、金太郎を「お銀」として育てることにし  
ました。入れかわって「金太郎」になったお銀は、  
どんだん力をつけて、ますますたくましくなりました。  
一方、「お銀」になった金太郎は、部屋で日記をつけて  
は和歌などを詠み、色白でたおやかになっていきました。

や がて、親がかり姫が、大学生になった冬の日です。  
親に勧められて行くようになったパソコン教室の帰り道  
で、迷子になってしまいました。やっと木の根元に、野  
ねずみおばあさんの暖炉の火がみつかりました。  
ずっと親の言うとおりにしてきたので、少し違うこと  
がしたくなり、親がかり姫は、野ねずみおばあさんと暮  
らすことにしました。  
野ねずみおばあさんは、親がかり姫にたずねました。  
「おまえは、何が好きなんだい」  
「そんなことを考えたことはないわ」  
「だったら、何になりたいんだい」  
「そんなことを聞かれたのは初めてよ」  
「自分のことを知らなければ幸せにはなれないよ」  
親がかり姫は、大事なことがわかりかけたような気が  
しましたが、それ以上考えるのをやめました。  
「お父さんとお母さんが探しています。はくと一緒に帰  
りましょう」  
親がかり姫は、野ねずみおばあさんを一人残して行く  
ことができず。でも、おばあさんは、お父さんとお  
母さんのところへ戻りなさいと言ってくれました。

お 父さんとお母さんのもとへ帰ると、親がかり王子と  
の結婚話が待っていました。親がかり姫は、「何か違う  
わ」と、一瞬思ったのですが、「親の決めた人だもの、  
きつと理想の人のね。もし、結婚生活がうまくいかな  
くなったら、親のところへ戻ればいんだわ」と、思い  
直しました。こうして、親がかり姫は、すべて親がかり  
に育てられ、親がかりで結婚をしました。  
野ねずみおばあさんから祝電が届きました。  
「結婚おめでとう。あなたが選んだ人だから間違いない  
でしょう。これからも、自分で考えて選んだことに責任  
をもって生きてください」  
しかし、それは親がかり姫の心には届きませんでした。

う わさを知ったお銀と金太郎は困ってしまいました。  
「ねえ、金太郎。わたし、今年の相撲大会には出られな  
いね。どうしよう」  
「うーん。大好きなお父さんを困らせたくないから、ほ  
くが優勝できるように、いまから猛稽古するよ」  
「無理なくいいよ。わたしは女だけど相撲が大好き。  
でも、金太郎はわたしにできないことがいっぱいでき  
じゃない」  
「でも、ほくはやっぱ男だから」  
と、二人は目に涙をいっぱいながら話し合いました。  
陰で二人の話を聞いていた金時は、いたたまれなくな  
って、姿を現しました。  
「お銀。金太郎。お父さんはなんと愚かなことをしてき  
たのだろう。二人とも好きなことをしているときは、と  
てもしあわせそうだというのに……。お銀はお銀として、  
金太郎は金太郎として生きていけばいいのだ。都の人た  
ちにもきちんと話して、わかってもらおう」  
「父上、ほくは金太郎に戻ってもいいのですか」  
「ああ、おまえはありのままがいい」  
と、金時は金太郎を抱きしめて泣きました。  
お銀はその話を聞くが早い、外へ飛び出しました。  
今年の相撲大会には、胸にさらしを巻いて優勝しようと  
稽古を始めたのです。  
「わたしは、お銀のままやりたいたいことをなんでもやっ  
ていいのね。だったら私は、海の方へ行くの国へ行きたい。  
もっとたくさんを知りたい」

お銀は、十七歳になったお銀は、夢をかなえて海外文  
化交流派遣団の一員になりました。厳しい訓練を乗り越  
えて手にした仕事でした。一方、金太郎もその旅のお話  
をまとめる随行団に選ばれました  
二人をとりかえたいと思う人は、都にはもう誰も  
いませんでした。

## あざれあ相談室から

生き方のこと、仕事のこと、家族のこと、体のこと……。どのようなことでもお話しください。

- **電話相談** 月～金曜日 9時から16時まで  
祝日と年末年始を除く
- **面接相談** 女性のための人権・法律相談  
心と体のトラブル相談  
事前に電話での予約が必要です。

### 県下4地区からの電話の転送サービスを行っています

近くの電話番号にかけると転送されて、あざれあ電話相談室につながります。どうぞご利用ください。

下田地区 ☎ 0558-23-7879 東部地区 ☎ 0559-25-7879

中部地区 ☎ 054-272-7879 西部地区 ☎ 053-456-7879

相談電話番号は **7879 なやみなく**です。

## あざれあ図書室から

あざれあ図書室には、一般の図書館では揃えていない女性問題の書籍やミニコミ誌などがあり、貸出しや閲覧することができます。また、インターネットや電話での検索のサービスも行っています。どうぞご利用ください。

☎ 054-255-8763 FAX 054-255-8759

e-mail azlib@shizuokanet.ne.jp

## 事務室から

あざれあでは大きな調理室、本格的な茶会が開ける茶室、フィットネスに最適なフロアの多目的室、ファミリーコンサートなどにも利用できる小ホールや音楽室、380人収容の大ホールなど、大小さまざまなタイプの会議室をお貸ししています。登録女性団体は半額サービス制です。

平日は9時から21時まで開館しています。詳しくは電話でお問い合わせください。 貸室問合せ ☎ 054-255-8440

## 女性の国際研修レポート 1999年11月18日から10日間

### デンマークの男女で取り組む子育て

#### 浜松レディス21会議

子どもをもつ夫婦の95%が職場に進出しているデンマークのファールム市は、女性も男性も仕事と育児を両立させながら、それぞれが興味を持つ学習ができるようにと、保育サービスに力を入れています。たとえば、子どもが1歳になるまでの育児休業中でも給料は完全に支給され、1歳から6歳まではさまざまな保育形態の中から家庭のニーズにあわせ選択できるシステムになっています。託児時間は朝6時から午後7時までで、保育園が用意した朝食を親子で食べて職場へ向かうこともできます。

また、自然環境を生かしてつくられた公園保育園では、高齢者や近隣の人々がボランティアとして乳児保育・学童保育のサポートをし、若い親たちの子育て情報の交換やボランティアの医者や心理学者による相談活動が行われていました。父親たちも休日にはイベントを催すなど、子育てに関わる誰もが、気軽に出入りするふれあいの場になっていました。このように、働きながら子育てをしている夫婦が、安心して子どもを預けられ育てられるような環境づくりは大切です。それは、施設だけでなく、子育てに悩む親たちへ情報を提供したり、女性の社会進出を支援するボランティアが育つことも含んでいます。

そのために、まずボランティア自らがアイデアを出し合い、できることから行動を起こすことです。私たちの可能性を感じることできた研修となりました。



保育園では男性の保育士が活躍していました

静岡県女性総合センターあざれあのホームページでは、主催講座・調査研究事業・女性関連の出版物・県内外の女性関連の機関や施設・県内の女性グループなどを紹介しています。

<http://www2.shizuokanet.ne.jp/azarea/azareahome.html>

## ねっとわあくTALK

『ねっとわあく』を読んで「私も何かきつとできる、やってみたいと思うようになりました」というお便りをいただきます。

「男だから」でも「女だから」でもなく、「私」として生きるための男女共同参画社会をつかっていくのは一人ひとりの気づきからです。みなさんのコミュニケーションサロンとしてお手紙を紹介します。

- 私の妻は高齢者ながら米づくりの専門家。うまい米づくりはよい土づくりがもとです。それには根気強く毎年堆肥を入れ続けることが大切。土中によい微生物を増やす努力を続けるのと同じように、人間性を培うことに心を向けて、若い世代の「人」を創り上げていくことを、女性たちが手を携えて進めていってほしいです。女性リーダーのネットワークが原動力となって。  
引佐町 野末三郎さん
- 頑張ってきた仕事で腕を痛め、職を辞して一年半。社会から取り残されたような孤独感と戦う日々の中で打ちこむもの、目標となるものを探しています。「生涯現役でいたい」というのが私の夢で、今は何かを見つけたくて女性学の学習会に参加しています。「ねっとわあく」の働く人々の記事を読み、「私も」という気持ちでフツフツと湧いてきました。これからも頑張ってください。私も何かをきつとみつけます。  
函南町 保科章代さん
- 女性がさまざまな分野で活躍しているのを知って頼もしい限りです。社会で活躍できるチャンスを手で持つように、私たち男性は積極的に家事や育児を分担し、惜しみない協力をしようではないか。  
静岡市 久保田剛弘さん
- 写真と文章と図表の割合がちょうど良く、ご苦労なさったことと思います。楽しく読ませていただきました。「男女共同参画社会基本法」を条文だけでは覚えられなかったのに「ねっとわあく」の第何条と思うと、すんなり写真とともに思い出せるので、私にとってはトラの巻です。いつも持ち歩くようにしています。  
三島市 赤間真由美さん
- 「男女共同参画社会基本法」の特集を、興味深く読みました。二十一世紀の社会では、ジェンダーと人権の視点を持って、この法律のもとで生き生きと暮らすと希望が見えてくるでしょう。「女だから」「男だから」ではなく、人として暮らすことが大切です。  
蒲原町 高柳みどりさん

# Information

## ● 講演会・講座などに参加しませんか ●

**あざれあセミナー** 著名人や有識者による講演会を県内各地で開催します。

**あざれあサタデーサロン** 男性やご夫妻のための参加型の楽しい土曜講座です。

**あざれあナイトカレッジ** 県民カレッジ連携講座  
仕事帰りに気軽に参加できる働く男女のための水曜日の夜の講演会です。

**あざれあカレッジえぼっく（基礎コース）** 県民カレッジ連携講座  
ジェンダーの視点で家族・福祉・労働・メディア・カウンセリング・経済・法律・政治などの様々な分野における女性・男性を取り巻く現状や課題を学習します。

**あざれあカレッジるねっさんず（実践コース）** 県民カレッジ連携講座  
グループ活動を行う上で必要な合意形成や広報の手法、事業の企画方法、グループ運営の方法、ディベートなどを演習をとおして習得していきます。

**情報誌「ねっとわあく」レポーター**  
男女共同参画に関する情報誌（年2回発行）の企画・取材・編集を行います。

**情報誌「エボカ」通信員**  
あなたが集めた女性に関する地域の情報を情報誌（年6回発行）に掲載します。



1876（明治9）年に浜松県榛原郡横岡村（現在の榛原郡金谷町）で、日本で初めて女性が投票しました。この124年前の投票日にはちなみ、静岡県では、平成11年度から毎年7月30日を「ふじのくに・男女共同参画の日」と決め、男女が対等にあらゆる分野に参画し、共に責任を担う社会の実現に向けて、新たな取り組みを行っていきます。

ポスターコンクール最優秀賞作品

山形県 松岡英男さん

「えぼっく」では社会的に作られた性差「ジェンダー」に気づき、自分を見つめ直していきました（右▶）  
「サタデーサロン」では男性もそばうちを体験しました（下▼）



特集「家族それぞれのかたち」、児童文学の中のジェンダーや創作童話はいかがでしたでしょうか。  
ご意見・ご感想を手紙、FAX、e-mail などでお寄せください。その他の問い合わせもお気軽にどうぞ。

静岡県女性総合センター あざれあ 事業推進スタッフ

〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1 ☎054-250-8107 FAX054-255-9266 e-mail azarea@shizuokanet.ne.jp



表紙のことは  
テーマは『春の万華鏡』です。光が交錯する春のフィールド、みんな輝いてほしい。それぞれの色、それぞれのかたち……みんな自分らしくあってほしい。

静岡県デザインセンター 小杉恵世主さん

童話挿絵  
男らしいとか、女らしいとか、そんなことよりもっと、その人が、どんな魅力をもった人間なのかということが、本当はとても大事なことなんですね。

版画家 風鈴丸さん

『ねっとわあく』は県民から公募したレポーターが企画・編集し年2回発行しています

編集アドバイザー 大國田鶴子さん



● 締め切りと文章の完成度という、二つの高いハードルを前に悪戦苦闘の一年間でした。いま、座学では学べない貴重な体験を通じて、仲間との協力に感謝とありがたさを実感しています。  
浜松市 澤田ひろ子

● 親がかりに「私の人生のどこがいけないの」と問われても明確な答えはありません。それぞれの人生だから……。じもあれ、稚拙な私のおはなしが、読者の心の片隅をノックすることができたから、さいわいです。  
静岡市 小路妙子

● 仲間との出会いはもちろんのこと、取材先の方々とのお出合いは、これからの私の大きな力となります。その名のとおりに「ねっとわあく」で広がったネットワークを、いこまでもつなげていけたらうれしいです。  
静岡市 堀川美紀子

● 「こんな世の中だからこそ、社会に一筋の灯火として新しい命を産み落とす」——悲しいニュースで埋め尽くされる日々、鈴木光司さんの「悲観しているだけではダメ」というメッセージに大きな勇気をもらいました。  
静岡市 大村圭子

● 妊娠中の企画会議、八か月のオナカを抱えての取材は、感慨深いものがありました。前身に続き難産の原稿作成でしたが、本番は安産でいきいきました。アドバイザーの大國さん、レポーターの皆さん、ありがとうございました。  
沼津市 鈴木美津子



古紙配合率80%再生紙を使用しています

発行 平成12年3月 編集 静岡県女性総合センター  
〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1 TEL 054-250-8107  
FAX 054-255-9266